

福 事 研

平成25年(2013年)9月27日発行

平成 25 年度総会・支部研修担当者研修会

平成 25 年 6 月 14 日(金)、福岡市「都久志会館」において、代議員(支部研修担当者)113名が出席し、平成 25 年度福事研総会及び支部研修担当者研修会を開催いたしました。

鬼塚会長挨拶

本日は平成 25 年度福事研総会にご参加いただき大変ありがとうございます。

現在、学校事務の共同実施については、県内ほとんどの市町村で実施され、本研究大会の中でもその取組みについて報告されています。少しずつではありますが交流の輪が広がっているようです。今後も更なる研究実践を深め、学校事務の質の向上を目指していきたいと考えております。

ここ数年、福事研の研究大会の持ち方、あるいは運営方法の改善を進めてまいりました。全体の研究大会に分科会方式を取り入れるようになり、開催時期は 12 月としました。6 月の総会の後は代議員を対象とした研修会としました。また、総会の議案書や「研究集録」、会報「福事研」をホームページからのダウンロード、そして、研究大会の申し込みも Web 申込みという方法をとらせていただきました。今後も運営の効率化を進めながら内容面での充実を図っていききたいと考えております。

また、福事研の新たな取組みとして、昨年度末に「福岡県学校事務の長期ビジョン検討委員会」を立



福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

事務局 柳川市立大和中学校
TEL 0944-76-4121
FAX 0944-76-4122
発行人 鬼塚 信也

ち上げました。新しい時代の学校事務・学校事務職員像等について協議を重ねた上で、福岡県の学校事務職員の目指すべき方向性について、将来的なビジョンという形で提言をしていきたいと考えております。

最後になりますが、平成 27 年度の全事研熊本大会では福事研も、分科会での発表を行う予定で、今年度よりその実証研究の準備に取りかかります。福事研との共同研究に参画していただける支部・グループを募集しておりますので、是非ご協力の程をお願いいたします。

平成 25 年度福事研総会

八女市支部の川野和敏さん、田川郡支部の松浦儀和さんを議長に選出し、議長挨拶、資格確認の後、平成 24 年度事業報



告・会計決算報告・監査報告、平成 25 年度役員に関する件、(承認後新役員の紹介)・事業計画・会計予算を審議し、いずれも原案どおり拍手で承認されました。総会資料はホームページに掲載しております。

是非ご覧ください。

総会終了後、退任役員(武原さん、木村さん、宮原さん)を代表して、武原前副会長から挨拶をいただきました。三名の皆さま大変お疲れ様でした。深く感謝申し上げます。



支部研修担当者研修会

「学校事務職員にしかできない仕事とは」

北九州市立大学 准教授 見館 好隆氏



モーガン・マッコール教授は人が成長するには、必ず「身の丈を超えた経験」が必要と指摘しました。ただ、これですべての人間が成長するというわけではなく、成長する人は「成長したい意欲」を持っていること

が前提となります。「成長したい意欲」を持つ皆さんが、研修や勉強会など、どのような学びを活用すればいいのかのヒントを本日ご提供できれば、そして一緒に考える事ができればと思います。

学校事務職員という「専門職」「プロ」としての存在意義が問われる時代はすぐそこまで来ています。簡単にアウトソーシングされないような存在になるべきではないでしょうか(京産大教授・西川信廣氏)



学校事務員の弱点として

- ①ロールモデル(目標となる人)や、メンター(教えてくれる人)、仲間がいない。
- ②所属する学校によって、教職員の志向や、学校の戦略、抱える課題が違う。
- ③研修が不十分

学校事務職員に求められることとして

- ①事務職員間の連携
- ②校長・教頭・教員・地域の人々との連携
- ③学校事務改革は学校改革と一体化して進むという意識を持つ

「変わらなければ、生き残れない」課題やニーズははっきりしています。それを実践する方法も、たくさんあります。やるか、やらないかだけではないでしょうか。



組織改革の見本となる「カモメになったペンギン(中村邦夫著)」を紹介します。足元の氷山がいつまでも溶けないとは、ペンギンも思っていない。

その日が訪れた時、自らそして家族のために、日々プロフェッショナルを目指すことは、もし氷山が溶けなくても、意味のあることだと思います。(講演要旨)

講演の中では、「学校事務職員にしかできない仕事とは？」言い



換えれば、「アウトソーシング出来ない、契約社員や派遣社員では絶対にできない仕事とは何でしょうか。」とのテーマでグループワーク(4人ずつ)をおこなったり、本日の学びを形にするため、ワールドカフェ方式で意見を出し合ったりして研修をおこないました。

ワールドカフェ方式

メンバーの組み合わせを変えながら、4~5人単位の小グループで話し合いを続けることで、あたかも参加者全員が話し合っているような効果を目指す。

知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる「カフェ」のような空間でこそ創発されるという考え方に基づいた話し合いの手法です。

講演会資料を希望の方は、見館好隆先生に直接メールで連絡してください。 mitate@kitakyu-u.ac.jp

第 45 回全事研石川大会参加報告

8月7日(水)～9日(金)の3日間、北陸の石川県金沢市において第45回全事研大会が開催されました。「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を大会テーマに、初日は石川県

立音楽堂において、文科省初等中等教育局主任視学官西辻正副氏による行政説明と全体研究会、2日目は



6つの会場に分かれてそれぞれの分科会、3日目は、まとめの会と金沢21世紀美術館の秋元雄史館長による記念講演がおこなわれました。

大会速報によると、全国から1,857名、福岡県からは56名の参加とのことでした。

第3分科会に参加して

宮若市立山口小学校 主任主事 堀川里美



今回の全事研大会は鳥取大会以来2年ぶりの参加でした。初日の全体会に続き、2日目は福井支部の分科会に参加しました。福井県公立

小中学校事務研究会は、県内小中学校事務職員のほぼ全員である272名で構成され「子どもたちの確かな学力を支援する学校事務」をテーマに、年3回の研究会を中心に研究・研修を進めているとのこと。平成23年に県事研のビジョンを示し、めざす事務職員像、そして次代を見据えた学校事務の未来像を示すために学校事務グランドデザインを策定されたそうです。また、県教委と県事研の連携により実現した取組として、保護者対応等の様々な場面で教職員が活用できる手引書「対応ナビゲーション」の実践報告がありました。「対応ナビ」では適切な対応の在り方



を「心技体」の三つの観点から考えるとして、これらの三つの要素を教職員の誰もが常に意識し、適切な対応ができるように日頃から心がけておくことが、信頼ある学校につながるものと考えたことでした。

午後は、助言者と提案者、参加者とのトークセッションがあり、討議の柱は、「信頼ある学校づくりにおける事務機能の在り方」と「キャリアに応じた学校経営への取組みとリーダーの育成」でした。司会者から「教育活動を意識した学校事務とは」との問いかけに、滋賀県の方から、「小学校の社会の授業にゲストティーチャーで教室に行き話をした。」等の発言がありました。

午前も午後もアイスブレイク(パンダのぬりえ、ビンゴゲーム)で始まり、会場を和やかにして参加者も発言しやすい雰囲気をつくってありました。

「対応ナビゲーション」は、学校が保護者・地域と一丸となって子どもたちを育てようという思いが強く伝わり、今後の対応に困った時の対処法の参考になりました。また福井県は、グランドデザインの策定期間2年、対応ナビ作成期間1年(アンケート収集も含めて)と短期間で作成されており事務職員の意欲を感じました。

福岡県からの参加も多かったようで、何回かその方たちの発言もありました。また今年、全事研に加入された沖縄県の方が何回も発言され、研修への意欲を強く感じました。



分科会終了後、会場近くの「兼六園」へ見学に行く途中、緊急地震速報が携帯電話にメールで届きびっくりしましたが、後ほど誤報だと聞き安心したことを思い出します。

福事研に対しては、貴重な研修の場を与えていた

だき感謝申し上げます。ありがとうございました。
今回学んだことを地域の研修会などで還元していきたいと思いを。

全事研大会に参加して(報告書より)

福井での取組みの原点は表題にもある「気づき」である。気づかないことには何も変わらない。気づけば「どうかしなければ」という行動に変わっていく。それが一人ではなく、事務研や共同実施といったチームになることによって、さらに大きな波へと変わっていく。その典型を見た思いがした。(3分科会参加)

あつと言う間の2泊3日でした。金沢は大変すばらしい場所でした。今大会で持ち帰ったものをこれからの業務に反映させて行き、そして、近隣の学校への還元も行いたいと思います。

全日程を通じて「世代交代」「継承」「キャリア(育成・アンカー等)」というキーワードがよく取り上げられていた。

学校教育目標達成のため、経験の浅い私が学校事務職員として何ができるのか、悩みを抱えた中での研修会の参加でした。今後は、福井支部の分科会で報告があったように、普段の仕事の中での「気づき」を大切に、学校教育ビジョンの達成のための役割や具体的な取組を探っていこうと思いました。(3分科会参加)

今回の発表を聞き、富山県の学校事務職員が抱える課題と、自分の県や地区が抱える課題との共通点が多いことを感じた。そうした課題を踏まえての、富山県の学校事務ビジョン作成の動きや、それに対する助言者の意見等は、現在学校事務ビジョン作成に取り掛かっている福岡県の事務職員にとって、とても参考になるものであった。(2分科会参加)

今回の全事研は、本来の事務職員の役割からどう教育活動につなげていくか、考えさせられる大会でした。これは私たちが今行っている共同実施の内容の中でも一番不得意な「教育支援」そのものだと思います。学校の中で仕事をする上で、当然切り離して考えることのできない教育活動に対して、私たち事務職員がどうやって関わっていけばよいのかのヒントをいただけた気がします。

全事研参加の総括としては、いつも参加後には、頑張らねばとエネルギーをもらうが、時間の経過とともにその意識が薄れて惰性に流されがちになる。今回はそうならないよう日々意識して仕事に頑張っていきたい。

福岡県学校事務の長期ビジョン検討委員会

平成 25 年 5 月 22 日(水)に、第 2 回目の検討委員会を開催し、長期ビジョン検討のための 3 つの作業部会を設置して、本格的な議論をスタートさせました。

各作業部会名及び主な検討内容は、以下のとおりです。

○職務のあり方・内容等検討作業部会

第 4 次研究中期計画までの福事研研究特別委員会の研究成果を整理し、方向性を定め、目標策定に生かす。

○職務遂行形態等検討作業部会

県内の共同実施等の組織及び運営等に関する現状分析と課題を踏まえ、改善策及び今後の方向性等について検討する。

○関係機関・団体等との連携検討作業部会

県内外の情報を収集しながら、地教委・地域等との連携の方策を探る。

8 月 30 日(金)の第 3 回検討委員会では、早速作業部会毎に協議の進捗状況について、報告を行いました。

次回以降は、長期ビジョンの大まかな項立て(プロット)の検討に入り、各作業部会の議論を加速させていきたいと考えています。

(糸島市立波多江小学校 武原 寛)

第 16 回九州各県事務研究会役員研修会

標記の研修会が下記のように開催されました。概要をお知らせ致します。

期 日 平成 25 年 9 月 6 日（金）14 時から
参加者 沖縄県を除く九州各県の事務研研究会役員
50 名（福岡県は鬼塚会長以下 8 名）
場 所 熊本市「水前寺共済会館」
内 容

- 1 開会及び日程説明
- 2 開催県挨拶（熊本県：藤川会長）
- 3 地区委員長挨拶（宮崎県：大道会長）
- 4 各県自己紹介
- 5 議事（議長 宮崎県：大道会長）
 - ・各県の取組及び研究課題等、研究大会日程及び現状報告について
 - ・当面する共通課題について
 - ・九州地区内研究会の今後のあり方について
 - ・第 47 回全事研大会（平成 27 年度熊本大会）について
 - ・その他

最初に藤川会長が、「全事研熊本大会まで 2 年を切っている。熊本大会では九州各県でそれぞれ分科会を担っていただき、九州で引き受けた全国大会という思いで協力をお願いしたい。」と挨拶されました。



（左 熊本県：藤川会長、右 宮崎県：大道会長）

各県の取組み等の報告では、本県から鬼塚会長・野村副会長が福事研の取組み、福事研大会の内容、福岡県版グランドデザインである長期ビジョン検討委員会の取組状況などを説明しました。



（福岡県役員）

当面する共通課題では、佐賀県から本年度に導入された統括事務長についての報告、長崎県からは、今年度から始まった「新たな共同実施」の取組状況、宮崎県からは任用一本化により、プロパー事務職員（学校事務で採用された人）が減っている状況などの報告がありました。特に任用一本化については各県から多くの質問や意見が出されました。

九州地区内研究会の今後のあり方については、本研修会の名称や九州地区研究大会の実施の是非について各県持ち帰って検討することになりました。

最後に第 47 回全事研熊本大会について、宮本熊本大会実行委員長より、「平成 27 年 8 月 5 日から 8 月 7 日の日程で、熊本県立劇場をメイン会場に開催する。」と報告がありました。「既に大会ロゴマークやキャッチフレーズも公募で決まり、2,200 名の参加者を目標に準備を進めているので是非協力をお願いしたい。」と話されました。

午後 2 時からの研修会でしたので時間が足りず、夜の懇親会でも、各県の研究内容についての情報交換や全事研大会などの話で大いに盛り上がりました。

平成25年度(2013年度) 役員・理事

役 職 名	氏 名	所 属	
会 長	おにつか しんや 鬼塚 信也	柳川市立 大和中学校	
副 会 長 (総 務 部)	かわはら みちひさ 川原 通央	小郡市立 のぞみが丘小学校	
副 会 長 (研 究 部)	たけもと あつし 武本 篤	北九州市立 二島小学校	
副 会 長 (研 究 部)	のむら あきつぐ 野村 明告	福岡市立 友泉中学校	
副 会 長 (広 報 部)	さんこだ はやと 三小田 迅人	八女市立 福島中学校	
事 務 局 長	はしもと つとむ 橋本 勉	田川市立 伊田中学校	
事 務 局 次 長	もろくま さとし 諸 隈 智	宗像市立 城山中学校	
事 務 局 員	たしろ こういち 田代 浩一	那珂川町立 那珂川中学校	
事 務 局 員	きむら まさゆき 木村 正幸	北九州市立 大蔵中学校	
事 務 局 員	く ぼ ひろし 久保 博	築上町立 下城井小学校	
事 務 局 員	もり さとし 森 聡	北九州市立 千代小学校	
監 事	ひがし ひさよし 東 尚嘉	豊前市立 角田小学校	
監 事	うりゆう なおこ 瓜生 奈緒子	直方市立 直方東小学校	
監 事	ふるかわ やすゆき 古川 泰之	糸島市立 前原中学校	
理 事	福 岡 市 (研 究 部)	あかぎ あけみ 赤木 明美	福岡市立 多々良小学校
	北 九 州 市 (総 務 部)	あおき たくや 青木 卓也	北九州市立 足立中学校
	京 築 地 区 (研 究 部)	ついき まさみ 築城 昌実	みやこ町立 黒田小学校
	北 九 州 地 区 (広 報 部)	こばやかわ しんいち 小早川 晋一	中間市立 底井野小学校
	筑 豊 地 区 (広 報 部)	たけもと ひろみ 竹本 弘美	赤村立 赤小学校
	福 岡 地 区 (総 務 部)	しばた まさはる 柴田 正治	春日市立 春日西中学校
	北 筑 後 地 区 (研 究 部)	こうたけ しゅういち 高武 正一	朝倉市立 久喜宮小学校
南 筑 後 地 区 (総 務 部)	りゅう のりこ 竜 典子	大川市立 田口小学校	

平成25年度 年間事業スケジュール

月	活動項目	活動の細目
4	理事選出 理事会 4/20 幹事会 4/20 支部代表者選出	平成25年度総会の計画立案 平成24年度会計監査 平成25年度総会の計画審議
5	理事会 5/10 支部代表者会 5/22	総会の運営計画審議 平成24年度事業報告案審議 平成24年度決算案審議 平成25年度事業計画案審議 平成25年度予算案審議 平成25年度役員・理事の確認 総会議案提案 新採・未加入者の加入勧誘 総会・支部代議員の選出 全事研会報の配布 全事研調査の提案 会員名簿の作成 選考委員選出
6	総会 6/14 (支部研修担当者研修会)	総会開催(運営の課題等) 各部活動計画 会報の作成(総会) 会費納入依頼
8	全事研総会 8/6 全事研石川大会 8/7~8/9	代議員総会参加 全事研大会参加
9	九州地区事務連絡会 (熊本) 9/6	九州各県事務研究会の対応 全事研会報の配布
10	全事研調査 理事会 役員選考委員会	会報「福事研」(27号)の発行 第16回研究大会の計画立案 全事研調査の集約・報告 次年度役員の選考
11	理事会 役員選考委員会	第16回研究大会の計画・業務分 担審議 次年度役員選考
12	福事研第16回研究大会 12月13日	第16回研究大会の開催運営
1	役員選考委員会 理事会	次年度役員選考 全事研会報の配布 全事研セミナー参加者選定
2	理事会 全事研セミナー (川崎市) 2/14	平成25年度理事会のまとめ
3	支部代表者会(評議員会) 理事会	平成25年度引き継ぎ 会報「福事研」(28号)の発行 平成25年度の活動のまとめ 平成26年度計画の立案

◇9月の九州各県役員研修会では、事務職員の任用制度が話題になりました。◇宮崎県の任用一本化をはじめ、大分県、長崎県等では「教育事務」での採用、佐賀県は昨年「学校事務」での採用がなくなり、県庁との人事一本化へ踏み出したようです。◇福岡県のように「学校事務」で採用される県は少数になってきましたが、ただ将来的にはどうなるかわかりません。◇任用一本化によって、研究会や共同実施の運営などに不安を感じている人もいます。皆さまはどのように考えていますか。

(三小田)